

13:00 開始のあいさつ

13:05～ 講演1「房総半島の多様な海鳥」

中央博物館 平田和彦 研究員

13:35～ 講演2「千葉県における地衣類相調査」

中央博物館 坂田歩美 研究員

14:05～ 講演3「干鰯の歴史と房総の繁栄」

関宿城博物館 榎美香 主任上席研究員

(休憩 15分)

14:50～ 講演4「漆芸家、佐治賢使の作品における
デザインと技法について」

千葉県立美術館 相川順子 上席研究員

15:20～ 講演5「千葉県の土壌動物」

中央博物館 萩野康則 自然誌・歴史研究部長

15:50 終了のあいさつ

千葉学講座

受講料 無料

講座のみの参加の場合は
入館料は不要です

中央博物館講堂 (オンラインにより同時配信)

定員/中央博物館講堂70名、オンライン100名(事前申込が必要です)

申込方法:中央博物館(ウェブサイト、往復葉書、ファクシミリ)、もしくは各館窓口へ。

※申込締切は2月24日(木)、定員を超えた場合は抽選、定員に達しない場合は追加募集を行います。



令和4年 3.6(日) 開場・受付 12:30～
13:00～16:00

千葉県立中央博物館
NATURAL HISTORY MUSEUM AND INSTITUTE, CHIBA

〒260-8682
千葉市中央区青葉町955-2(青葉の森公園内)
TEL 043-265-3111(代表) FAX 043-266-2481
<http://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/>

事業主体 千葉県立美術館/中央博物館・大利根分館・大多喜城分館・分館海の博物館/現代産業科学館/関宿城博物館
房総のむら(指定管理者[公財]千葉県教育振興財団)





講演1

「房総半島の多様な海鳥」

中央博物館 平田和彦 研究員

太平洋に突き出した房総半島。岩礁、砂浜、干潟といった多様な環境からなる海岸線と、黒潮と親潮が出会う沖合には、多くの海鳥が生息しています。本講演では、房総半島の海鳥の多様性とその魅力について紹介します。(写真：外洋性のミツユビカモメ)



講演2

「千葉県における地衣類相調査」

中央博物館 坂田歩美 研究員

千葉県立中央博物館では、千葉県に生育する地衣類のリストを完成させるため、開館以来県内各地で地衣類相調査を実施してきました。今回は、これまでの県内における調査の状況、分布について紹介するとともに、ウメノキゴケ科の種ごとの県内の分布について紹介します。(写真：地衣類・ウメノキゴケ)



講演3

「干鰯の歴史と房総の繁栄」

関宿城博物館 榎美香 主任上席研究員

江戸時代、日本中がのどから手が出るほど欲しかった肥料、それは「干鰯」です。海が沸き立つほどイワシが獲れたという房総の海はまさに宝の山。イワシが支えた房総の海とそれを運んだ河川流域の都市の繁栄についてお話します。(写真：大日本物産図会「上総國九十九里鰯漁之図」)



講演4

「漆芸家、佐治賢使の作品におけるデザインと技法について」

千葉県立美術館 相川順子 上席研究員

佐治賢使(大正3[1914]年～平成11[1999]年)は、漆芸で文化勲章を受章した工芸界の巨匠で、40歳から85歳で世界するまで市川市を拠点に作品を制作しました。彼の作品の昆虫、風景、動植物などの多彩なモチーフにおける斬新なデザインや高度な技法について紹介します。(写真：「朝陽来」株式会社 高倉堂六本木蔵)



講演5

「千葉県の土壌動物」

中央博物館 萩野康則 自然誌・歴史研究部長

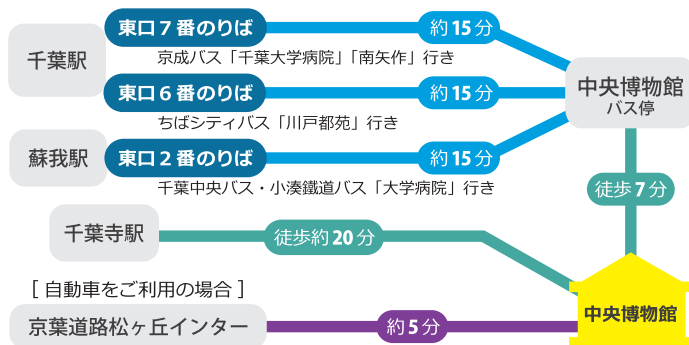
落ち葉の下にひっそりと暮らしている土の中の生きもの(土壌動物)の多様な姿や自然界での大切な働きについて解説し、これまでに分かっている千葉県の土壌動物に関する知見などを紹介します。(写真：土壌動物切り絵)

「千葉学講座」は、県立5館8施設の調査研究活動の成果を広く還元していくことを目的とし、博物館職員と県民の方々がこの講座を通じて房総を再発見し、地域に立脚した新しいコミュニティづくりや地域の発展に役立つことを目指しています。

新型コロナウイルスの感染状況によっては、中止になる場合がございます。ご来館前に詳細をウェブサイト等で必ずご確認ください。

交通案内

ACCESS



入館に際してのお願い

入館前に検温、体調等の確認をさせていただきます。入館にあたっては入館確認票のご記入をお願いしています。マスクを着用し、咳エチケットを心がけてください。こまめな手洗い、手指の消毒をお願いします。展示をご覧になる方は、他の方との距離を2メートル程度あけてご覧ください。展示物、展示ケースにはお手を触れないようお願いいたします。